

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 26 日作成)

小委員会名	鉄筋工事研究小委員会	主 査 名：大野義照 就任年月：2003 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 鉄筋コンクリート工事運営委員会	委員長名：田中享二 主 査 名：梶田佳寛
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p><u>設置目的</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋コンクリート造の配筋に関する諸問題の検討 ・「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」の維持管理 ・「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」の鉄筋工事に関する箇所の検討 <p><u>各年度活動計画</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2003 年度：「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」の大改訂。 ・2004 年度：「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」の正誤表をホームページに掲載。2005 年 2 月刊行「高強度コンクリート設計施工指針案・同解説」第 9 章「鉄筋の加工・組立て」の原案について審議。 ・2005 年度：委員所属会社等の標準配筋図の検討ならびに、新しい工法（機械式定着、溶接接継ぎ手）および現行指針の問題点の審議。鉄筋コンクリート構造運営委員会 17 条改定 WG へ定着に関する要望書を提出。 ・2006 年度：RC 配筋指針第 3 刷発行に関する作業。JASS5 および RC 計算規準の改訂作業に関する支援。機械式鉄筋定着工法の RC 配筋指針掲載について検討。小梁定着に関する実験・研究について調査検討。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有	
	大野 義照	大阪大学工学研究科 地球総合工学専攻
	秋重 博之	独立行政法人都市再生機構 九州支社
	小野里 憲一	工学院大学 建築都市デザイン学科
	黒瀬 行信	清水建設株式会社 設計本部構造生産設計
	高橋 英雄	高橋工業株式会社 綱島工場
	津田 三知昭	株式会社日建ハウジング 技術部
	浜辺 秋彦	早川鉄鋼販売株式会社 工事部
	林 博之	株式会社日建設計 構造設計室
	原 健二	鹿島建設株式会社 建築設計本部構造設計統括グループ
	平田 努	大成建設株式会社 設計本部
	真喜志 卓	-
	益尾 潔	財団法人日本建築総合試験所 構造部
	増田 安彦	株式会社大林組 技術研究所建築構造研究室
安岡 千尋	株式会社竹中工務店 設計部	
設置 WG (WG 名：目的)		
2006 年度予算	円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)

刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. JASS5 および RC 配筋指針の読者からの様々な質問について検討し回答した。 2. 新しい工法(機械式定着、溶接継ぎ手)および現行指針の問題点の審議をし、次回の RC 配筋指針改定で追加・削除すべき点を整理した。 3. 鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説に部分的な修正を加え 2006 年 10 月に第 3 刷を発行。 4. JASS5 および RC 計算規準の改訂作業に対し、配筋工事に関連した事項について意見を伝えた。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「JASS5」と「RC 計算規準」は配筋工事にかかわる重要な書籍である。両書籍に矛盾がある場合、鉄筋工事に関する設計・施工の現場で混乱するため、整合が取れた状態で刊行される必要である。しかし両書籍に関する活動は、それぞれ材料・施工委員会と構造委員会で行われているため、改定作業日程について両者間の調整が十分であるといえない。改定に向けた両委員会間で十分な検討が行える期間と刊行時期について調整が望まれる。 2. 配筋工事の混乱をされるため、日本建築学会の鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説と公共建築協会の鉄筋コンクリート構造配筋要領の違いを少なくするよう、公共建築協会との調整が要である。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。